

第 17 回スナックゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会 レポート

2019 年 7 月 14 日(日曜日) グランディ那須白河ゴルフクラブ NASU コース(福島県)



- ✓ 北海道から沖縄まで 33 校 174 名が参加、内、初出場は 7 校。選手・引率保護者等を含めて総勢約 562 名が来場。都道府県予選会は 19 地区で実施。



- ✓ 雨天のため、開会式は西郷村文化センターにて実施。開会式のあとは、JGTO ドリームチームのプロゴルファーの皆さんと、ゲームを交えた交流を行い、昼食をとってスタートの準備に備えた。



- ✓ ジャパンゴルフツアー選手会より、JGTOドリームチームが参戦。小田孔明、北村晃一、日高将史、河野祐輝、木下康平、和田章太郎が子どもたち一緒にプレー。1ホールをプレーするごとに後続の組に移動して、子どもたちは必ずプロと1ホールをプレーした。



- ✓ 前年が記録的な猛暑の中での運営で、本年度も熱中症対策など万全な状態で準備を整えたが、梅雨時期の雨により、開会式と表彰式を西郷村文化センターで実施し、競技においては前半は雨の中でのプレーとなったが、後半は曇り空でのプレーとなった。選手1名がアレルギーと腹痛で4ホールで棄権したが翌日の社会学習見学には参加。



- ✓ 全国大会の開催に尽力して頂いている方々による昼食会を行い情報交換を行った。
- ✓ 競技日の夕食後には「はやぶさ2に夢を乗せて」というテーマで、地元西郷村に会社のある、日本工機株式会社より講師を招いて1時間の講話を行った。





- ✓ 大会翌日には、社会学習見学として、選手・引率者約 231 名が福島県環境創造センターコミュニティふくしまを社会学習見学した。
- ✓ 大会当日に、西郷村から、惜しくも全国大会に出場できなかった児童 6 名がボランティアとして、JGTO ドリームチームのサポート役を行い、プロゴルファーに付き添い学んだ。



- ✓ 全国大会の様子は BS12ch TwellV にて 9 月 29 日(日)13:00~14:00 で放送され、放送後に YouTube にもアップロードされる。

JGTO ドリームチームが圧勝…!!

<https://www.jgto.org/pc/OtherTopicsDetail.do?year=2019&tournaKbnCd=0&conferenceCd=000&languageKbn=0&administerNo=859>

7月14日に、福島県のグランディ那須白河ゴルフクラブ・NASUコースで行われた全国大会「スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ」。

年に一度の子どもたちの祭典で、今年もプロ6人が1日限りの夢のチームを結成した。

我らが”JGTO ドリームチーム”がスナッグキッズに圧勝した。

この日は雨模様の難条件で、プロの本領発揮！

昨年大会は、1打差で敗れた雪辱を晴らした。

もっとも貢献したのは、最年少の和田章太郎だった。今年の男子ゴルフで令和最初のバーディを奪った23歳が2年ぶり2度目の出場で、栄えあるこの日のベストスコアの22ストロークを記録。

続いて2番目に若い熊本出身の24歳、木下康平が23。

さて、注目のチームスコアは6人中上位3人が採用される。

どんなに結束力が抜群でもその”栄誉”をめぐるのは、毎年ひそかに繰り広げられてきたバトル。

みごとその”3番手”に潜り込んだのは……我らが孔明！

”行列の父”の血を引く北村晃一の頭脳プレーも、初出場を果たした日高将史のやわらかな物腰に秘めた闘志も、6年ぶり2度目の出場で、張り切っていた31歳の河野祐輝もしのぐ「26ストローク」をマーク。

和田と木下と孔明と、3人合わせてチームスコアは「71」。

優勝した東広島市立東西条小に6差をつけた。

1打差で敗れた昨年大会の面目を躍如して改めて、プロの威厳を示してみせた。

4年連続5度目の出場で、今や子どもたちにも”孔明ちゃん”と親しまれるおなじみの顔。今年は2年ぶり3度目のキャプテンにも復帰した。心優しき孔明は、参加児童みんなにお弁当チェーンの「ほっともっと(Hotto Motto)」で使える食事券を用意するなど今年も子どもたちのために大ハッスル……！

スタート前の子どもたちとの”異種競技”でも、メンバーたちと心をひとつに真剣勝負!!

閉会式のあとは、プロ6人がかりで出場全33校・173人全員の、おそろいのジャックバニー公式キャップにサインのプレゼントもぬかりなかった。

毎年、心打たれる子どもたちの熱戦とともに、6人の”ドリームメンバー”による1日限りの豪華競演も見逃せない。

今年17回目を迎えた「スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会」の様子は9月29日日曜日の13時から、BS12ch TwellV(トゥエルビ)で放送されます。

ぜひ、そちらもお楽しみに！

今年もたくさんのご支援を受けて/スナッグゴルフ全国大会

<https://www.jgto.org/pc/OtherTopicsDetail.do?year=2019&tournaKbnCd=0&conferenceCd=000&languageKbn=0&administerNo=858>

各地区予選を勝ち抜いた33校・計173人のスナッグキッズが福島県のグランディ那須白河ゴルフクラブ・NASUコースに集結。7月14日に行われた「第17回スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ」で、日ごろの練

習の成果を競いました。

新たにスイスの高級腕時計「リシャールミル」のサポートを受けて行われた本年度は上位 3 校に、9 月 21 日の「韓日スナッグゴルフ交流戦(韓国開催)」の出場権も与えられることになり、“日本代表権”をかけて、例年にも増して真剣そのもの。

そんな子どもたちの熱いプレーを今年もたくさんの方々が支えてくださいました。

公益財団法人ジュニアゴルファー育成財団のみなさん。

大会共催者の一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟のみなさん。

今年から、特別協賛という形でご支援をいただくことになった「ディライトワークス株式会社」のみなさん。

大会後援の公益財団法人ベルマーク教育助成財団のみなさん。

北海道や沖縄県など、遠方から遠征してくる学校の航空チケットをご提供くださった特別協賛社の ANA のみなさん。

「スナッグゴルフ支援プロアマチャリティコンペ」を開いて、参加プロから寄金を集めてくださった栄和リサイクルのみなさん。

ジャックバニーのおしゃれなデザインで、子どもたちの揃いのキャップとウェアを特別に作ってくださった株式会社 TSI グルーヴアンドスポーツのみなさん。

雨中の戦いで、ペコペコの選手たちのお腹を「めざめるカラダ朝カレー」で満たしてくださった、ハウス食品のみなさん。

カレーの味を引き立てる、美味しいお米は会津産のコシヒカリ！ 県産の桃のデザートに加えて子どもたちみんなに JA キャラクターの「笑味ちゃんノートと3色ボールペン」をプレゼントしてくださった JA 福島中央会のみなさん。

子どもたちのがんばりを、新聞やウェブなどで取り上げてくださった福島民報社のみなさん。キャラクターグッズの「伝次郎ストラップ」と「伝次郎消しゴム」の可愛い参加賞もありがとうございます！

「C1000 レモンウォーター」でプロや子どもたちの乾いた喉を潤してくださったハウスウェルネスフーズ株式会社のみなさん。

優勝校の副賞として「ニシゴメクッキー」をご提供くださった西郷村教育委員会のみなさん。

出場選手たちのおやつに「ポテまんこと”ポテトまんじゅう”」と、参加賞として「ニシゴメタオル」をご用意してくださった、地元西郷村のみなさん。

雨中の中、スコアラーなどで運営にご協力くださった NPO 法人西の郷スポーツクラブのみなさん。

今年もハイレベルなコースコンディションを作ってくださった、開催コースのグランディ那須白河ゴルフクラブのみなさん。道具を提供してくださった、日本スナッグゴルフ協会のみなさん。

子どもたちの宿泊費や遠征費を捻出してくださったのは、今年も心優しき大勢のプロゴルファーのみなさんでした。

そして、何よりこのハレの日にこそ子どもたちのそばに寄り添い、雨中の全力プレーで子どもたちを励まし、大会を盛り上げてくれた”JGTO ドリームチーム”のみなさん。

孔明キャプテンの所属先「株式会社ブレナス」さんは、Hotto Motto で使えるお食事券を子どもたちみんなに贈ってくださいました。

今年も子どもたちにとっておきの思い出をプレゼントしてくれて、ありがとうございます。

”JGTO ドリームチーム”の応援団をつとめてくれた西郷村のゆるキャラ「ニシゴメちゃん」とゴルフタウンしらかわ推進協議会の「ゴルバックくん」もありがとう。

今年は共催者でスナッグゴルフの”生みの父”テリー・アントンさんも表彰式のプレゼンターとして駆け付けてくださいました。

今年もみなさまのおかげで安全、無事に大会は終了しました。

本当にありがとうございました……！

※協賛社のみなさまの掲載につきましては順不同とさせていただきます。どうぞご了承ください。

スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会

<https://www.jgto.org/pc/OtherTopicsDetail.do?year=2019&tournaKbnCd=0&conferenceCd=000&languageKbn=0&administerNo=857>

<成績発表>

優勝 東広島市立東西条小学校(広島県) 78 ストローク

2位 常陸大宮市立大宮小学校(茨城県) 79 ストローク

3位 笠間市立岩間第三小学校(茨城県) 79 ストローク

----- ↑ 2020 年度シード校

4位 多古町立多古第一小学校(千葉県) 82 ストローク

5位 笠間市立岩間第二小学校(茨城県) 82 ストローク

6位 東広島市立三ツ城小学校(広島県) 83 ストローク

7位 神戸市立高丸小学校(兵庫県) 84 ストローク

8位 神戸市立塩屋北小学校(兵庫県) 85 ストローク

9位 笠間市立友部小学校(茨城県) 85 ストローク

10位 西郷村立川谷小学校(福島県) 86 ストローク

11位 千歳市立泉沢小学校(北海道) 86 ストローク

12位 笠間市立北川根小学校(茨城県) 87 ストローク

13位 桑名市立藤が丘小学校(三重県) 87 ストローク

14位 播磨町立播磨南小学校(兵庫県) 87 ストローク

15位 立教小学校(東京都) 90 ストローク

16位 播磨町立蓮池小学校(兵庫県) 90 ストローク

17位 南山大学附属小学校(愛知県) 92 ストローク

18位 神戸市立井吹東小学校(兵庫県) 94 ストローク

19位 伊江村立西小学校(沖縄県) 95 ストローク

20位 福山市立伊勢丘小学校(広島県) 96 ストローク

21位 菊陽町立菊陽西小学校(熊本県) 97 ストローク

22位 常陸大宮市立山方小学校(茨城県) 99 ストローク

23位 西郷村立熊倉小学校(福島県) 99 ストローク

24位 大崎市立鬼首小学校(宮城県) 101 ストローク

25位 伯耆町立八郷小学校(鳥取県) 101 ストローク

26位 香南市立香我美小学校(高知県) 103 ストローク

27位 阿波市立土成小学校(徳島県) 103 ストローク

28位 周南市立沼城小学校(山口県) 103 ストローク

29位 岡山大学教育学部附属小学校(岡山県) 105 ストローク

30位 奈良育英小学校(奈良県) 106 ストローク

31位 常陸大宮市立大宮北小学校(茨城県) 115 ストローク

32位 香川大学教育学部附属高松小学校(香川県) 129 ストローク

33位 福島市立蓬萊小学校(福島県) 157 ストローク

JGTO ドリームチーム 71

小田孔明プロ 26ストローク

北村晃一プロ ※28ストローク

日高将史プロ ※30ストローク

河野祐輝プロ ※29ストローク

木下康平プロ 23ストローク

和田章太郎プロ 22ストローク

・チームが同スコアの場合に、上位 3 名に限らず最もスコアの少ない選手の学校が上位となる。

・更に同じスコアの場合には、次にスコアの少ない選手の学校が上位となる。

・全選手のスコアが同じ場合、最もスコアの少ない選手のスコアを 9 番ホールからカウントバックして決定する。

■ベストスコア

◇青コース

佐久間貴大(常陸大宮市立大宮小学校 6 年生)23(13 アンダー)

◇赤コース

徳永篤弥(東広島市立東西条小学校 6 年生) 24(12 アンダー)

◇黄コース

山本有希(東広島市立東西条小学校 6 年生)

佐藤愛桜(笠間市立岩間第三小学校 5 年生)

佐久間大魁(常陸大宮市立大宮小学校 4 年生)27(9 アンダー)

■ホールインワン

高橋結夏(大崎市立鬼首小学校6年生)青コース2番ホール 17 ヤード

佐藤愛桜(笠間市立岩間第三小学校5年生)黄コース2番ホール 17 ヤード

難波正継(東広島市立東西条小学校3年生)黄コース2番ホール 17 ヤード

前田隆之介(立教小学校6年生)青6番ホール 17 ヤード

新井志穂(西郷村立川谷小学校4年生)青6番ホール 17 ヤード

佐久間大魁(常陸大宮市立大宮小学校4年生)黄6番ホール 17 ヤード

橋本恵典(岡山大学教育学部附属小学校6年生)黄6番ホール 17 ヤード

手嶋海翔(周南市立沼城小学校5年生)黄6番ホール 17 ヤード

■アルバトロス

藤本有咲(阿波市立土成小学校6年生)青コース1番ホール 81 ヤード

スナッグゴルフのあとは勉強会！ 特別講演を実施

<https://www.jgto.org/pc/OtherTopicsDetail.do?year=2019&tournaKbnCd=0&conferenceCd=000&languageKbn=0&administerNo=856>

スナッグゴルフの全国大会で、熱戦を繰り広げた当夜はみんなで勉強会！ランチャー(ゴルフでいうアイアン)をペンに持ち替え、みんなで熱心にノートに取った。

早起きして眠い目もパッと覚めちゃう。とっておきの講話はここ西郷村(にしごうむら)で、宇宙と格闘を続ける大人たちの物語だ。

つい 11 日のニュースでも、テレビや新聞を賑わせたばかり。

小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星リュウグウへのタッチダウン(着陸)に成功した。

秒速 2 キロでその表面に球をぶつける高度な技術を持つのが日本工機株式会社だ。

その白河製造所が、スナッグゴルフ全国大会の聖地「グランディ那須白河ゴルフクラブの」のすぐそばにある。

そんな稀有なご縁で、この日の特別講演にお迎えしたのが同社の鹿住孝さん。

難しい宇宙や科学のお話も、実際にりゅうぐうに球をぶつけた装置を講演会場にお持ちいただき、子どもたちにもわかりやすくお話してくださった。

「はやぶさ2」の計画を、始められた直後にあの大地震が東北を襲った。

未曾有の大災害にも負けずに、大いなる宇宙への道を切り拓いた。

ここ西郷村から世界に誇れる日本の技術力を発信し続ける方の生のお声が、子どもたちの心を打った。

社会学習見学を実施

<https://www.jgto.org/pc/OtherTopicsDetail.do?year=2019&tournaKbnCd=0&conferenceCd=000&languageKbn=0&administerNo=855>

熱闘から一夜明けた翌 15 日月曜日の海の日、子どもたちの学びの日。前日 14 日はしのぎを削ったライバル同士もみんな仲良く訪れたのは、福島県田村郡三春町の「コミュタン福島」。
16 年に完成した「環境創造センター」内にある教育施設だ。

福島県の実情や現状、放射能に関わる正確な情報などを、見て実際に体験して学べる。

あの未曾有の大地震が、とりわけ福島の方々から何を奪い去っていったのか。
そして、そこから懸命に立ち直ろうと奮闘されている中で、これから何を目指しておられるのか。
原子力だけに頼らない新しい福島を作ろうとするみなさんの取り組みを、肌で感じる事が出来る。

放射能は、目に見えないから余計に怖い。
だからこそ、震災直後は県内のあちこちで風評被害が起きたのだがこの施設では、そんな放射能を霧状にして、実際に肉眼で見えるようにしたり、線量を数値化して示したり、ゲームを通してその仕組みを学べたりと、子どもたちにも大変分かりよい教材に溢れている。

スナッグゴルフの全国大会が東北に会場を移した 2013 年から、試合の翌日にはこうして社会学習見学を開いて、みんなで震災や防災について思いを巡らすことが恒例となっており、今年もみんな前日まで”スナッグ日本一”を目指していたのと同じ熱意で、難しい学びにも取り組んだ。

あの震災から 8 年。今年の参加児童はみな生まれたばかりで記憶にはないだろうが、大人たちにはあの災害から得た学びを次世代に語り継ぐ使命がある。

● 製作物・掲出物・ご提供商品

